

# 朝鮮語の回想テンス形式 *-deo* の用法 \*

## On the retrospective suffix *-deo* in Modern Korean

李 炫 静

Li Xuanjing

Korean verb/adjective endings are classified into two groups: pre-final endings and final endings. This paper examines the function of the retrospective suffix *-deo*, which is one of the prefinal endings. Previous studies have pointed out that the retrospective suffix *-deo* is a tense suffix and is used when the speaker recollects previous experiences. This paper insists that the suffix *-deo* has an evidential meaning, and that the use of the suffix *-deo* depends on the subject person and the type of verbs or adjectives. When the speaker's information source is visual, the suffix *-deo* can be attached with a verb or a non-psychological adjective. In contrast, when the information source is non-visual, the suffix *-deo* can be used with a psychological adjective.

キーワード： 朝鮮語, 先語末語尾, テンス, 人称, 証拠性

Keywords: Korean, Pre-final ending, Tense, Person, Evidentiality

### 0. はじめに

朝鮮語の用言は語幹と語尾で構成される<sup>1</sup>。語尾の中には先語末語尾と語末語尾がある<sup>2</sup>。朝鮮語の用言は語幹と語末語尾で構成される場合もあり、語幹と一つの先語末語尾と語末

---

\* 本論文は、第 73 回新潟大学言語研究会（2017 年 12 月 5 日）における口頭発表の内容に加筆したものである。研究会において極めて有益なコメントをくださった先生方に深く感謝申し上げます。本論文のデータは中国朝鮮族出身の筆者の内省に基づくものである。

<sup>1</sup> 亀井他編（1989: 950）では朝鮮語について「現在、朝鮮半島には、南と北にそれぞれ異なる政治的権威が存在し、相互のあらゆる交流が断絶しており、それぞれの国語も大韓民国では韓国語、朝鮮民主主義人民共和国では朝鮮語と名称が異なる。しかしながら、この両者は、地域的な方言差や、それぞれの政治体制、国語政策の相違に基づく、語彙、発音、正書法などの違いがあるにせよ、言語的には、本来、同一のものである」と指摘した。本論文での「朝鮮語」という名称は一般名称としての言語名として用いており、特定の国語をさすものではない。

<sup>2</sup> 李載聖（2006）によれば、形容詞と動詞は語幹と語尾に構成され、語尾には先語末語尾と語末語尾がある。李應百・金圓卿・金善豊（1998）によれば、先語末語尾とは用言の語幹と語末語尾の間に現れる文法形態素の総称である。例えば、テンス先語末語尾 *-ss-*, *-gess-*, *-deo* や尊敬先語末語尾 *-si-* などがある。李載聖（2006）によれば、語末語尾には終結語末語尾と非終結語末語尾がある。

語尾で構成される場合もあり、語幹と複数の先語末語尾と語末語尾で構成される場合もある。以上のことは「語幹+（一つ以上の先語末語尾）+語末語尾」のように定式化できる。

本論文で考察する回想テンス形式 *-deo* は、先語末語尾の一つである。例文(1)における「見る*-deo*-終結」のように、語幹と語末語尾の間に現れる。

- (1)      *geumyeo-neun*              *yeonghwa-reul*              *bo-deo-ra*  
          彼女-は                      映画-を                      見る-*deo*-終結  
          「彼女は映画を見ていた」

本論文は、主節に現れる先語末語尾 *-deo* について分析し、*-deo* 形式の意味用法を研究するものである<sup>3</sup>。第1節では、人称による *-deo* 形式と用言の構成について分析する。第2節では、*-deo* 形式にはエヴィデンシャル用法があると主張し、分析を行う。

## 1. *-deo* 形式の文法上の構成

本節では、*-deo* 形式とほかのテンス形式の構成、人称による *-deo* 形式と用言の構成について分析する。

### 1.1 *-deo* 形式の文法上の構成

まず金龍慶 (1991: 13) を参考に、*-deo* 形式とそれ以外のテンス形式の構成を(2)のようにまとめる<sup>4</sup>。

- (2)      語幹+(*eo*)*ss*                      + *gess*                      + *deo*                      + 語末語尾  
          語幹+過去テンス形式+未来テンス形式+回想テンス形式                      + 語末語尾

*-deo* 形式は他のテンス形式と共起しうる。しかし、形式の形態素配列が(2)と一致しなければならない。

<sup>3</sup> 先語末語尾 *-deo* には異形態 *-di-* と *-de* がある。金龍慶 (1991) によれば、*-deo* が *-(seu)p-* に後続する場合に異形態 *-di* が現れ *-seup-di-da* となる。一方で *-deo* が語末語尾に位置する場合には、異形態 *-de* が現れ *meogeo-ss-de* や *gongbu-ha-de* のようになる。

<sup>4</sup> テンス形式である *-ss-*, *-gess-*, *-deo* は、相互共起が可能である。しかし、過去テンス形式 *-ss-* と未来テンス形式 *-gess-* が共起する際には、過去テンス形式のみがテンス用法を持つ。未来テンス形式が他のテンス形式と共起する場合には、推測や意志などを表すようになる。

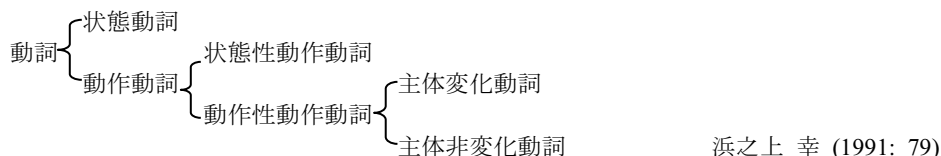
- (3) a. *geu-neun*            *gogi-reul*                    *jaba-ss-deo-ra*  
 彼-は                    魚-を                    捕まる-ss-deo-終結  
 「彼は魚を捕まえた」
- b. *geu-neun*            *gogi-reul*                    *jaba-ss-eoss-deo-ra*  
 彼-は                    魚-を                    捕まる-ss-eoss-deo-終結  
 「彼は魚を捕まえた」
- c. *geu-neun gogi-reul jap-gess-deo-ra*                    金龍慶 (1991: 13) 例文(2a)  
 彼-は    魚-を    捕まる-gess-deo-終結  
 「彼は魚を捕まえるようだった」
- d. *geu-neun gogi-reul japa-ss-gess-deo-ra*                    金龍慶 (1991: 13) 例文(2b)  
 彼-は    魚-を    捕まる-ss-gess-deo-終結  
 「彼は魚を捕まえたようだった」
- e. *geu-neun gogi-reul japa-ss-eoss-gess-deo-ra*                    金龍慶 (1991: 13) 例文(2c)  
 彼-は    魚-を    捕まる-ss-eoss-gess-deo-終結  
 「彼は魚を捕まえていたようだった」

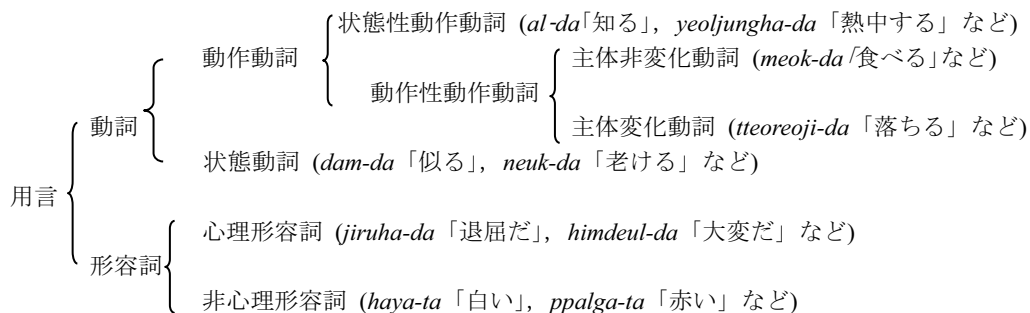
(2)では、-*deo* 形式が他のテンス形式と共起する際に -(*eo*)*ss-*, -*gess-*, -*deo* の順に現れることを述べた。例文(3a)から(3e)では、-*deo* 形式が -*ss-deo*, -*ss-eoss-deo*, -*gess-deo*, -*ss-gess-deo*, -*ss-eoss-gess-deo* のように共起している。

## 1.2 人称による-deo 形式と用言の構成

本節では、人称による-deo 形式と用言の構成について分析する。朝鮮語の用言<sup>5</sup>を[図 1]のように分類する。

<sup>5</sup> 動詞の分類は、浜之上 (1991) の「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」を参照。浜之上 (1991: 26) は動詞の分類について「範疇の境界が厳密に切られて非連続的に対立しているのではなく、範疇の境界がゆるやかに句切られた連続的な連なりにおける対立であるということである」と指摘した。





[図 1] 用言の分類

以下では用言の分類に基づき、人称による*-deo*形式の使用との関連について分析する。

主語<sup>6</sup>が1人称である場合、*-deo*形式は例文(4)のような状態性動作動詞 *al-da*「知る」や例文(5)のような主体非変化動詞 *meok-da*「食べる」と共起しない。しかし、例文(6)のように *kkum-eseo*「夢で」などの特定条件が与えられれば、主語が1人称であっても*-deo*形式は状態性動作動詞や主体非変化動詞と共起することが可能である。特定条件については第2節で詳しく分析する。

- |       |                  |                    |                     |
|-------|------------------|--------------------|---------------------|
| (4) * | <i>na-neun</i>   | <i>al-deo-ra</i>   |                     |
|       | 私-は              | 知る- <i>deo</i> -終結 |                     |
| (5) * | <i>na-neun</i>   | <i>bab-eul</i>     | <i>meok-deo-ra</i>  |
|       | 私-は              | ご飯-を               | 食べる- <i>deo</i> -終結 |
| (6)   | <i>kkum-eseo</i> | <i>na-neun</i>     | <i>bab-eul</i>      |
|       | 夢-で              | 私-は                | ご飯-を                |
|       |                  |                    | <i>meok-deo-ra</i>  |
|       |                  |                    | 食べる- <i>deo</i> -終結 |
- 「夢で私はご飯を食べていた」

主語が1人称である場合、*-deo*形式は主体変化動詞や状態動詞と共起しない。しかし例文(7)(8)のように、「最近感じていたが」「写真を見たら」など特定条件を与える場合には、主体変化動詞や状態動詞と*-deo*形式が共起する。

- |     |               |                        |              |                       |
|-----|---------------|------------------------|--------------|-----------------------|
| (7) | <i>yojeum</i> | <i>neukkin-geo-nde</i> | <i>na-do</i> | <i>byeonha-deo-ra</i> |
|     | 最近            | 感じる-の-が                | 私-も          | 変わる- <i>deo</i> -終結   |
- 「最近感じていたが、私も変わっていた」

<sup>6</sup> 主語について、徐正洙 (1993) は非同一主語制約についての主語「論理的主語」ではなく、「表面的主語」であると指摘し、金英姫 (1991) は「事態の参加者である」と指摘した。

- (8) *sajin-eul bo-ni na-do neulgeo-ss-deo-ra*  
 写真-を みる-と 私-も 老ける-過去-deo-終結  
 「写真を見たら、私も老けていた」

主語が2人称である場合の-deo形式は、例文(9)の *yeoljung-hada* 「熱中する」のような状態性動作動詞、例文(10)の *undong-hada* 「運動する」のような主体非変化動詞、例文(11)の *byeon-hada* 「変わる」のような主体変化動詞、例文(12)の *dalm-da* 「似る」のような状態動詞と共起する<sup>7</sup>。

- (9) *neo, yojeum gongbu-e yeoljung-ha-deo-ra*  
 君, 最近 勉強-に 熱中-する-deo-終結  
 「君, 最近勉強に熱中していた」
- (10) *neo, undong-ha-deo-ra*  
 君, 運動-する-deo-終結  
 「君, 運動していた」
- (11) *oraeganman-e bwa-seo geureonji neo jom byeonhae-ss-deo-ra*  
 久しぶり-に 会う-て なんだか 君 ちょっと 変わる-過去-deo-終結  
 「久しぶりに会ったせいか、君、ちょっと変わった」
- (12) *neo-neun eomeoni-rang mani dalma-ss-deo-ra*  
 君-は お母さん-と すごく 似る-過去-deo-終結  
 「君はお母さんとすごく似ていた」

-deo形式と動詞の共起は、主語が3人称の場合と2人称の場合と同様である。しかし、-deo形式と形容詞が共起する場合には人称による違いが見られる。

-deo形式と心理形容詞<sup>8</sup>が共起する場合、例文(13a)のように主語が1人称の場合 *na-neun goerop-deo-ra* 「私は苦しかった」は自然であるのに対し、例文(13b)のように主語が2人称の場合 *neo-neun goerop-deo-ra* 「あなたは苦しかった」は非文になる。疑問文の場合1人称とは共起しないが、例文(13c) *neo-neun goerop-deo-nya* 「あなたは苦しかったの？」のように、2人称とは共起する。例文(13d)のように、主語が3人称である場合は-deo形式と共起しない。

<sup>7</sup> -deo形式が他のテンス形式 *-ss-*, *-gess-* と共起する際には、他のテンス形式はテンス用法を失う。例文(11)のような状態動詞を用いる *dalma-ss-deo-ra* (語幹+過去テンス形式+回想テンス形式+語尾) では、過去テンス形式はテンス形式の用法を失い、状態を表す。

<sup>8</sup> 金榮花 (2010) によれば、心理形容詞とは事物・事態に対する主体の感情を表す形容詞である。

- (13) a *na-neun goerop-deo-ra*  
私-は 苦しい-*deo*-終結  
「私は苦しかった」
- b \* *neo-neun goerop-deo-ra*  
あなた-は 苦しい-*deo*-終結
- c *neo-neun goerop-deo-nya?*  
あなた-は 苦しい-*deo*-疑問  
「あなたは苦しかったの？」
- d \* *cheolsu-neun goerop-deo-ra*  
チョルス-は 苦しい-*deo*-終結

朝鮮語では, *i chuu-n nalssi-e geureoke ibeu-myeon neo chuwo* 「この寒い天気になんか格好では君, 寒い」, *cheolsu himdeureo. gyaehante sikijima* 「チョルス, 大変だ. 何もさせないで」のように, 2 人称主語や 3 人称主語と心理形容詞が共起すること自体は可能である. しかし *-deo* 形式の場合には, 2 人称主語は疑問文にしか生起しないし, 3 人称主語は許されない.

例文(14)のように主語が 1 人称である場合, *-deo* 形式は非心理形容詞とは共起しない. しかし例文(15)のように, 特定条件を与えたならば共起できる. 例文(16)のような 2 人称主語や例文(17)のような 3 人称主語の場合, 非心理形容詞 *ippeu-da* 「きれいだ」, *jal-handa* 「上手だ」と共起することができる.

- (14) \* *na-neun ki-ga keu-deo-ra*  
私-は 背-が 高い-*deo*-終結
- (15) *sajin-eul bo-ni na-do ki-ga keu-deo-ra*  
写真-を 見る-と 私-も 背-が 高い-*deo*-終結  
「写真を見ると, 私も背が高かった」
- (16) *neo-neun ippeu-deo-ra*  
君-は きれい-*deo*-終結  
「君はきれいだった」
- (17) *cheolsu-neun unjeon-eul jal-ha-deo-ra*  
チョルス-は 運転-を 上手-だ-*deo*-終結  
「チョルスは運転が上手だった」

以上分析した人称による*-deo*形式と用言の構成を以下の[表1]にまとめる。

[表1] 人称による*-deo*形式と用言の構成

|     | 状態性動作動詞<br>主体非変化動詞 | 主体変化動詞<br>状態動詞 | 非心理形容詞 | 心理形容詞        |
|-----|--------------------|----------------|--------|--------------|
| 1人称 | 特定条件               | 特定条件           | 特定条件   | 平叙文○<br>疑問文× |
| 2人称 | ○                  | ○              | ○      | 平叙文×<br>疑問文○ |
| 3人称 | ○                  | ○              | ○      | ×            |

○ は*-deo*と共起することを示す  
× は*-deo*と共起しないことを示す

[表1]から分かるように、主語の人称ごとに*-deo*形式が使用できるか否かは、用言の分類と関連する。主語が1人称である場合、動詞および非心理形容詞は特定条件を与えた場合にしか*-deo*形式と共起しない。心理形容詞である場合には*-deo*形式と共起するが、平叙文に限られる。

主語が2人称である場合、動詞および非心理形容詞は*-deo*形式と共起する。心理形容詞の場合は疑問文の場合にしか共起しない。

主語が3人称である場合、動詞および非心理形容詞は*-deo*形式と共起し、心理形容詞とは共起しない。

*-deo*形式のこのような特性は、*-deo*形式の意味用法と関係があると考えられる。第2節では*-deo*形式の意味用法について分析する。

## 2. *-deo*形式の意味用法

朴在淵 (2006) は*-deo*形式について過去の感覚的観察を表すと指摘する。朴鎮浩 (2011) は、話し手が過去のある時点において直接入手した情報に基づく言及を行っているため直接的エヴィデンシャルであると指摘した。

エヴィデンシャル用法とは、日本語記述文法研究会 (2003: 133) の説明によれば、「観察・推定・伝聞など、その情報が何に基づくかということを表す」こととなる。

筆者は、*-deo*形式に関して視覚と非視覚的感覚<sup>9</sup>がその情報の出所であると考えられる。本節では、*-deo*形式を含む例文を視覚と非視覚的感覚に分類して分析する。

視覚により得た情報では、「私が見た」という意味を含む。例文(18)では、私が見たとき「チョルスはゲームをやっていた」ことを含意し、視覚による情報が情報の出所となって

<sup>9</sup> Aikhenvald (2004) の分類に基づく。

いる.

- (18) *cheolsu-neun geim-eul ha-deo-ra*  
 チョルス-は ゲーム-を する-*deo*-終結  
 「チョルスはゲームをやっていた」

しかし、視覚による情報では基本的に認識者が存在しない。そのため、例文(19)のような1人称の主語は基本的に*-deo*形式と共起しない。しかし、例文(20)のように「鏡に映った」自身や夢での自分自身など、特定条件が加わることによりはじめて、主語である自分自身を観察することができる。

- (19)\* *nae-ga uss-go i-ss-deo-ra*  
 私-が 笑う-て いる-過去-*deo*-終結  
 (20) *geoulsog-e nae-ga uss-go i-ss-deo-ra*  
 鏡の中-に 私-が 笑う-て いる-過去-*deo*-終結  
 「鏡の中の私が笑っていた」

特定条件について、宋昌善 (2015) は客観的環境であると指摘し、徐正洙 (1993) は、1人称である報告者<sup>10</sup>と主語の分離現象であり、表面的に同一人物であるが、報告者が1人称である主語と分離する場合であると指摘した。李姫子他 (2010) は自分のことを客観的に観察する場合であると指摘した。すなわち、認識者である「私」が動作主である「私」について「鏡の中に」あるいは「夢で」「写真では」のような観察を行われる環境を与えると、*-deo*形式が主語1人称と共起する。特定条件は、1人称である認識者と動作主に違いがあり、自分自身を外部から認識することができる場合である。

過去のある時点に視覚により得た情報では、例文(21)のような主語が2人称の場合や例(22)のような3人称の場合、*-deo*形式と共起する。

- (21) *neo chukgu-do ha-deo-ra*  
 君 サッカー-も する-*deo*-終結  
 「君、サッカーもしていた」

<sup>10</sup> 徐正洙 (1993) によれば、ここで示す「報告者」は発話者である。本論文では、認識者と言う名称を用いる。



- (22) *geunyeo-neun*      *norae-reul*      *jal*      *bureu-deo-ra*  
 彼女-は      歌-を      よく      歌う-deo-終結  
 「彼女は歌をよく歌っていた」

過去のある時点に非視覚的感觉により得た情報は、主語が1人称である場合にのみ-deo形式を用いる。例文(23)のように、過去のある時点に「歌が良い」と感じ、感じたことを言うことである。心理形容詞と-deo形式が共起し、非視覚的感觉による情報を言うことである。例文(24)のように、主語が3人称の場合は-deo形式と共起しない。

- (23) *na-neun i*      *norae-ga*      *joh-deo-ra*  
 私-は      この      歌-が      よい-deo-終結  
 「私はこの歌がよかった」
- (24)\* *geunyeo-neun*      *himdeul-deo-ra*  
 彼女-は      大変-deo-終結

-deo形式のエヴィデンシャル用法と主語の人称の関係を[表2]にまとめる。

[表2] -deo形式のエヴィデンシャル用法と人称の構成

|     | 視覚による情報 | 非視覚的感觉による情報 |
|-----|---------|-------------|
| 1人称 | 特定条件    | ○           |
| 2人称 | ○       | ×           |
| 3人称 | ○       | ×           |

○ ここの考察に該当することを示す

× はここの考察に該当しないことを示す

### 3. まとめ

本論文では、朝鮮語の先語末語尾の1つである -deo について分析し、-deo形式の意味用法について人称およびエヴィデンシャル用法からの分析を行った。-deo形式は、過去のある時点に、視覚による情報と非視覚的感觉による情報を回想しながら言う形式である。本論文では結論として、-deo形式について[表1]と[表2]のような制約が存在することを示した。

[表 1] 人称による*-deo* 形式と用言の構成

|      | 状態性動作動詞<br>主体非変化動詞 | 主体変化動詞<br>状態動詞 | 非心理形容詞 | 心理形容詞        |
|------|--------------------|----------------|--------|--------------|
| 1 人称 | 特定条件               | 特定条件           | 特定条件   | 平叙文○<br>疑問文× |
| 2 人称 | ○                  | ○              | ○      | 平叙文×<br>疑問文○ |
| 3 人称 | ○                  | ○              | ○      | ×            |

○ は*-deo* と共起することを示す  
× は*-deo* と共起しないことを示す

[表 2] *-deo* 形式のエヴィデンシャル用法と人称の構成

|      | 視覚による情報 | 非視覚的感覚による情報 |
|------|---------|-------------|
| 1 人称 | 特定条件    | ○           |
| 2 人称 | ○       | ×           |
| 3 人称 | ○       | ×           |

○ この考察に該当することを示す  
× はこの考察に該当しないことを示す

Lee (2011) によれば、エヴィデンシャルリティという文法範疇を有する言語では、情報の入手経路によって対応する形式が異なるのが一般的であると指摘した。このことも踏まえて、[表 1]と[表 2]により*-deo* 形式について以下のようにまとめられる。

- [1] 過去のある時点に視覚により得た情報は、「動詞語幹+*deo*+語末語尾」と「非心理形容詞語幹+*deo*+語末語尾」形式で表す。  
[2] 過去のある時点に非視覚的感覚により得た情報は、「心理形容詞語幹+*deo*+語末語尾」形式で表す。

## 参考文献

- 李 姫子・李 鍾禧 (2010) 『韓国語文法語尾・助詞辞典』スリーエーネットワーク。  
 亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一 (編) (1989) 『言語学大辞典第 2 巻 世界言語編(中)』三省堂。  
 日本語記述文法研究会 (編) (2003) 『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』くろしお出版。  
 浜之上 幸 (1991) 「現代朝鮮語の aspekto クラス」『朝鮮学報』138 輯, 1-93。  
 金 英姫 (1991) 「회상문의 인칭 제약과 책임성」(回想文の人称制約と責任性) 『国語学』

10号, 37-80.

金 龍慶 (1991) 「현대국어의 회상법연구」(現代国語 の 回想法研究) 『大学院學術論文集』 33号, 12-27.

金 燦花 (2010) 『한 중 감각형용사 의미』(韓中感覺形容詞の意味) 構造韓國學術情報.

朴 在淵 (2006) 『한국어 양태 어미 연구』(韓國語樣態語尾研究) 太学社.

朴 鎮浩 (2011) 「한국어에서 증거성이나 의외성의 의미성분을 포함하는 문법요소」(韓國語における証拠性あるいは意外性の意味成分を含む文法要素) 『言語と情報社会』 西江大学 言語情報研究所, 1-25.

徐 正洙 (1993) 『국어문법의 연구 1』(国語文法の研究 1) 韓國文学図書館.

宋 昌善 (2015) 「선어말어미 -더-의 주어 인칭 제약에 대한 비판적 고찰」(先語末語尾-*deo*의 主語人稱制約に関する批判的考察) 『言語科学研究』 73, 121-136.

李 應百·金 圓卿·金 善豊 (1998) 『국어국문학자료사전』(国語国文学資料辞典) 韓國辞典研究社.

李 載聖 (2006) 『글쓰기를위한 4천만의국어책』(書き物のための4千万の国語書) 도울니오크.

Lee, Jungmee. (2011) The Korean evidential *-te*: A modal analysis. *Empirical Issues in Syntax and Semantics*. vol.8, 287-311.

Aikhenvald, Alexandra Y. (2004) *Evidentiality*. Oxford: Oxford University Press.